

今回のおはなし

「アレルギー 食道や胃腸にも」

「無煙タバコ製品「スヌース」



## アレルギー 食道や胃腸にも

のどの詰まりや胸焼け 国内でも症例

食べ物や花粉によって食道や胃腸に炎症が起き、のどの詰まりや胸焼けにつながる「消化管アレルギー」の患者が、国内でもみつかるとなってきました。ステロイドによる治療や、アレルギーの原因となる食材を取り除いた食事療法が試みられています。

事例：昨春から胸焼けがするようになり、近くの診療所で処方された胃薬では改善せず、半年後には、のどのつまりも気になり始めました。内視鏡検査や組織を調べた結果「好酸球性食道炎」と診断されました。

この「好酸球性食道炎」は、口に入った食物や微生物によるアレルギー反応で、好酸球という白血球が食道の粘膜などで増えることで起きます。胸焼けや胸痛、うまく食べ物を飲み込めないなどの症状がでます。重症化すると、食道が狭くなって食べ物が詰まることもあります。

好酸球性食道炎の患者は、30～50代の男性に多く、半数はぜんそくや花粉症などアレルギーの治療歴があるそうです。食物が原因で急激に生じるアナフィラキシーとは異なり、時間をかけて炎症が起きて症状が出てくるとみられています。この食道炎は、1990年頃から欧米で患者が増え始め、日本では2006年に初めて確認されました。島根県内の医療機関で内視鏡検査を受けた2万人を調べると、この食道炎がある人の割合は、2010年には5000人に1人でしたが、2014年には約2500人に2人と報告されています。

治療は、まずPPIを使って効果をみます。この薬で、患者のほぼ半数が改善します。PPIが効かない場合、ステロイドを使った治療法が有効だとわかってきました。吸入ステロイドを患部の周囲にとどまらせると、その後分解されるため、副作用の影響が少ないといわれています。

消化管アレルギーは、食道炎だけでなく、胃や小腸で起きる胃腸炎もあります。胃腸炎は腹痛や下痢などがあり、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢で発症します。吸入ステロイドでは患部に届かないため、全身に効くステロイドを治療に使います。

消化管アレルギーは、原因となる食品を特定して取り除けば、根治できる可能性が高いです。ステロイド治療は、使い続けると骨粗鬆症やうつ病の副作用がでる恐れがあり、薬を減らすと再び症状がでることもあります。

治療を受けられる病院も限られていて、国内では、現在、島根大病院と国立成育医療研究センターにとどまっているそうです。

